

60分でわかる新約聖書(5) 「使徒の働き」

1. はじめに

(1) 使徒の働きの位置づけ

- ①新約聖書の中で最も長い書である(28章、1,007節)。
- ②四福音書に続く唯一の歴史書である。
- ③パウロ書簡が書かれた背景と状況を説明してくれる書である。
 - *この書なしには、パウロ書簡を十分に理解することはできない。
 - *パウロがいかにして使徒になったのかも分からない。
- ④初代教会の状況を説明してくれる書である。
 - *使徒の働きがなければ、初期の信者たちが経験した葛藤、失望、神学的課題、希望などを理解することはできなかつたであろう。
- ⑤使徒の働きの重要性を低く見積もってはならない。

(2) タイトル

- ①伝統的に「使徒の働き」(The Acts of the Apostles)である。
- ②しかし、使徒たち全員の働きが均等に記録されているわけではない。
 - *ペテロとパウロだけが強調されている。
 - *使徒ヨハネは登場するが、彼の言葉は記されていない。
 - *使徒ヤコブの死は、たった1節の説明で終わっている(使12:12)。
- ③「ある使徒たちのある働き」(Certain Acts of Certain Apostles)である。
- ④もっと正確には、「聖霊の働き」である。
 - *あるいは、「聖霊を通じた復活のイエスの働き」である。

(3) 著者

- ①ルカの福音書の著者と同じくルカである。
 - *使1:1~2

Act 1:1 テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。

Act 1:2 それは、お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた後、天に上げられた日までのことでした。

- ②ルカは、聖霊に導かれこの書を書いた。
- ③ルカが使用した資料は、どのようなものか。

*個人的体験(私たち章句)

・使16:10~17、20:5~15、21:1~18、27:1~28:16

*パウロから教えられた情報

- ・パウロの回心体験
- *他の目撃者たちの証言
- ・使 20 : 4~5

Act 20:4 彼に同行していたのは、ピロの子であるベレア人ソパテロ、テサロニケ人のアリスタルコとセクンド、デルベ人のガイオ、テモテ、アジア人のティキコとトロフィモであった。

Act 20:5 この人たちは先に行って、トロアスで私たちを待っていた。

- ・エルサレムの使徒たちと兄弟たちの証言

(4) 執筆年代

- ①エルサレム崩壊(紀元70年)以前である。
- ②パウロの死(紀元66~68年)以前である。
- ③皇帝ネロによる迫害(紀元64年)以前である。
- ④恐らく、紀元60~62年頃であろう。
 - *ルカは、教会が誕生してから約30年の歴史を記した。
 - *ルカは、どういう目的をもってこの書を書いたのか。

2. アウトライン: 使徒の働きの執筆目的

- I. パウロの使徒職の擁護
- II. パウロの無罪性の証明
- III. キリスト教の普遍性の証明
- IV. キリスト教発展の歴史の提示
- V. 終末的希望の告白
- VI. 神の主権の確認

結論: 私たちへの適用

使徒の働きについて学ぶ。

I. パウロの使徒職の擁護

1. パウロの使徒職を疑う者たちがいた。

(1) 1コリ 9:1

1Co 9:1 私には自由がないのですか。私は使徒ではないのですか。私は私たちの主イエスを見なかったのですか。あなたがたは、主にあつて私の働きの実ではありませんか。

- (2) パウロの回心体験の記録が、3度出てくる。

*使 9:1~43、22:1~30、26:1~32

2. ペテロとパウロの驚くべき対比が書かれている。

(1) 生まれつき足の悪い人の癒し

*使3:1~11、14:8~18

(2) ペテロの影、パウロの手ぬぐいや前掛け

*使5:15~16、19:11~12

(3) ユダヤ人たちにねたみを起させた。

*使5:17、13:45

(4) 魔術師シモン、魔術師バル・イエス

*使8:9~24、13:6~11

(5) ドルカスの蘇生、ユテコという青年の蘇生

*使9:36~41、20:9~12

II. パウロの無罪性の証明

1. 政治権力に対して、パウロの無罪証明をする必要があった。

(1) パウロはローマで獄中生活を送り、裁判の時を待っていた。

①これは、キリスト教の無罪証明の試みでもある。

(2) 使徒の働きに記録されている迫害は、2つの例外を除いて、宗教的なもの。

①そのほとんどが、ユダヤ教からの迫害である。

②2つの例外とは、ピリピでの迫害とエペソでの迫害である。

(3) ピリピでの迫害(使16:12~40)

①占いの霊につかれた若い女奴隷を解放した。

②金儲けの望みがなくなったので、彼女の主人たちから訴えられた。

③パウロがローマ帝国の権威に反抗したわけではない。

(4) エペソでの迫害(使19:23~41)

①銀細工人デメテリオが暴走を煽動した。

②町の書記官が、騒ぎを静めた。

III. キリスト教の普遍性の証明

1. 福音の伝達

(1) 人種的広がり

- ① サマリア人、改宗者(エチオピア人の宦官)、異邦人(コルネリオ)
- ② アンテオケ教会の誕生

(2) エルサレム教会による認定

- ① エルサレム会議(使15章)
- ② 異邦人は、恵みと信仰によって救われることを認定した。
- ③ 異邦人は、ユダヤ教に改宗しなくてもよい。

(3) 福音は、あらゆる人たちに伝わって行った。

- ① 老若男女の区別なく。
- ② 貧富の差に関係なく。
- ③ 身分の差に関係なく。

IV. キリスト教発展の歴史の提示

1. 地理的広がり

(1) 使1:8

Act 1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

- ① エルサレム、ユダヤ、サマリア、地の果て
- ② キリスト教は、30年間でエルサレムからローマまで伝わった。

2. 教会成長報告

(1) 7回出て来る。

- ① 使2:47、6:7、9:31、12:24、16:5、19:20、28:30~31

(2) ローマ世界の境界の地パレスチナから、首都ローマまで、福音が伝わった。

- ① ペテロからパウロへの移行が必要であった。
- ② ユダヤ人伝道から異邦人伝道への移行が必要であった。

(3) ルカは、ルカの福音書の続編に当たる歴史書を書いたのである。

V. 終末的希望の告白

1. この歴史書には、神学的要素がたっぷり含まれている。

(1) 救済論

①ユダヤ人も異邦人も、同じ福音によって救われる。

2. 特に重要なのは、終末論である。

(1) 使徒の働きの中には、「神の国」(御国)という言葉が8回出て来る。

①ルカの福音書には30回以上出て来る。

(2) 使1:6

Act 1:6 そこで使徒たちは、一緒に集まったとき、イエスに尋ねた。「主よ。イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのですか。」

①「国」とはギリシア語で「バシレイア」であり、「kingdom」である。

②弟子たちは、メシア的王国の成就に関する質問をしているのである。

(3) 使28:30~31

Act 28:30 パウロは、まる二年間、自費で借りた家に住み、訪ねて来る人たちをみな迎えて、

Act 28:31 少しもはばかりことなく、また妨げられることもなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

①使徒の働きは、パウロが異邦人に神の国を宣べ伝えているところで終わる。

3. 教会は、メシア的王国の相続人である。

(1) 御国の福音は、ユダヤ人から異邦人に伝わった。

①エルサレムからローマに伝わった。

(2) メシア的王国の約束は、ユダヤ的希望である。

①今や、異邦人もメシア的王国の約束の受取人となった。

②メシア的王国とは、メシアの再臨の後に地上に成就する王国である。

*文字通りの物理的な国である。

*王なるキリストが、エルサレムから統治される。

VI. 神の主権の確認

1. キリスト教の広がりには、神の主権によって導かれたものである。

(1) 迫害は、宣教の広がりには貢献した。

①サマリア人伝道と異邦人伝道は、迫害によって散らされなければ起こらなかった。

(2) パウロの伝道旅行を導いたのは、三位一体の神である。

- ①第二次伝道旅行でパウロがヨーロッパ大陸に渡ったのは、神の導きによる。
- ②これで、福音が西回りで世界中に伝達されることが決まった。

(3) 神は今何をしておられるのか。

①使 15 : 17

Act 15:17 それは、人々のうちの残りの者と／わたしの名で呼ばれるすべての異邦人が、
／主を求めるようになるためだ。

②神は、「主の御名で呼ばれる異邦人」を呼び集めておられる。

結論：私たちへの適用

1. ルカが伝えようとしてことを理解しよう。
 - (1) 初期の教会の歴史
 - (2) 初期の信者たちの信仰
 - (3) 神の計画と神の主権

2. 初期の信者たちの信仰から学ぼう。
 - (1) 彼らの確信
 - (2) 彼らの献身
 - (3) 彼らの希望

3. 現代の『使徒の働き』を書き継ごう。
 - (1) 終末論的希望（再臨とメシア的王国）
 - (2) 神の主権
 - (3) 「主の御名で呼ばれる異邦人」を呼び集めよう。